富山型デイサービスの取り組み「このゆびと～まれ」

このゆびとーまれとは？	１９９３年（平成５年）に、富山赤十字病院を退職した看護師３人が立ち上げた「民営デイケアハウスこのゆびとーまれ」がはじまりです。 その中の一人、惣万は「病院で看護婦として働いていることの限界を感じた。」と当時を振り返っています。病院でいくらお年寄りの命を助けても、最後の場面で「家に帰りたい」「畳の上で死にたい」とお年寄りが泣いている場面をたくさん見て、そういったお年寄りたちを助けるために「このゆびとーまれ」を設立することにしました。
デイケアハウス　とは？	デイ（ｄａｙ）は昼間、ケア（ｃａｒｅ）は世話、ハウス（ｈｏｕｓｅ）は家。すなわち、日中に身の回りの世話をしてくれる施設のことをいいます。最近では**デイサービス**という言葉の方が一般的です。 施設と聞くと、お年寄りばかりがいる老人ホームのような場所を思いうかべる方もいると思いますが、「**このゆびとーまれ**」は子供もお年よりも障がいのある人も、「**誰でも必要なときに必要なだけ利用**」でき、施設らしさが感じられないところです。見学者から、「このゆびとーまれは和やかな空気に包まれていて、まるで**昔の大家族のよう**」とよく言われます。
富山型とは？	「このゆびとーまれ」のように、「赤ちゃんからお年よりまで、障害があってもなくても一緒にケアする活動と、縦割りの壁を打ち破った行政の柔軟な補助金の出し方を併せて「富山型デイサービス」と呼びます。 この、本当の意味でのノーマライゼーションである「富山型」は福祉関係者の共感を呼び、全国へ広まりつつあります。（平成２８年１月現在、全国で１７００施設を超えています。）
現在の事業	２００４年５月１０日富山市茶屋町において、従来の**富山型デイサービス**に加え、障害者も受け入れ可能な**ショートステイ**（短期入所施設）、および**認知症対応型グループホーム**、の３つの機能を併せ持った「**このゆびとーまれ茶屋**」が、２００５年４月１日にはこのゆびとーまれの向いに「**デイサービスこのゆびとーまれ向い**」がオープンしました。 さらに、２０１３年４月１日には、富岡町において「**就労継続支援Ｂ型　はたらくわ**」の事業を開始しました。（これは富山県内に広がる「富山型デイサービス」

	で福祉就労をしている障害者の方たちをサポートするものです。）
	「現７事業所の配置図」 「このゆび富岡、周辺図」 「このゆび茶屋、周辺図」

【富山型デイサービスとは、】

「富山県」の人が「富山」で初めて作ったから「富山型デイサービス」なんです。
はじまりは、平成５年。

富山赤十字病院で看護師をしていた惣万佳代子氏、西村和美氏、梅原けい子氏の３人が、高齢者、こども、障がい者がひとつ屋根の下で目配りの利いた福祉サービスを行いたいという思いで、「このゆびとまーれ」を創業しました。

惣万氏は「病院で看護婦として働いていることの限界を感じた。」と当時を振り返っています。病院でいくらお年寄りの命を助けても、最後の場面で「家に帰りたい」「畳の上で死にたい」とお年寄りが泣いている場面をたくさん見てきました。

そして以前訪れた老人ホームで、まるで生きる気力を無くしているかのようにお年寄りたちが全く話もせずに一日を過ごしている姿を見て、どこか違和感を感じました。

惣万氏は「子供といっしょに笑ったり、怒ったり、歌をうたったりすることはどんなリハビリよりもよい。子供がいればリハビリなんてする必要がない。」と言っています。

「このゆびとーまれ」のように、「赤ちゃんからお年寄りまで、障害があってもなくても一緒にケアする活動方式と、行政の柔軟な補助金の出し方を併せて「富山型」と呼びます。

官民一体となって地域ぐるみで介護される側、介護する側にもお役に立てる「富山型デイサービス」を目指していきたいと思っています。

１．誰でも利用できる、温かい楽しい施設

「お年寄りはお年寄りの施設」「障がい者は障がい者の施設」と仕切りを作るのではなく、おじいちゃんも、おばあちゃんも、こどもたちも、赤ちゃんも、障がいがあってもなくても、いろんな人たちが一緒に楽しく過ごす・・・そんな福祉サービスがデイサービス」です。

中には、お年寄り同士だけが集まる「富山型デイサービス」もありますが、老人ホームや大きな施設とは異なり、小規模で温かい空間で仲間同士楽しく過ごしておいでます。

みんなでお茶を飲んでおしゃべりしたり、ごはんを食べたり、テレビを見たり、なにげない普通の日常と変わらない生活を大事にしています。時には、季節ごとのイベントを楽しんだり、散歩やお出かけだってします。畑のある事業所ではみんなで苗を植え、収穫を楽しむこともできます。私たちスタッフはみんな、利用者さんのニコニコ喜ぶ顔をいつも願っています。

お年寄りの方とこどもたちが一緒に時間を過ごすことで芽ばえるステキな瞬間もたくさん

あります。おじいちゃんが孫と遊ぶように若返ったり、元気なお年寄りの方が介護のお手伝いをすることで生きがいを感じたり、核家族で育ったこどももお年寄りと触れあうことができたり、障がいを持つ方と接することで優しい心が育ったり・・・
スタッフだって若い人もいっぱい。みんな人生の勉強をさせてもらってます。

２．民家のような「ひとつの家」

「富山型デイサービス」のほとんどが、民家を改装して作った小さい普通の家です。大きな病院とは違い、畳があり台所がある、自分の住んでいる家となんら変わりない、今まで馴染んでいた環境です。その普通の民家がバリアフリーになり、生活しやすく、介護もしやすくなっただけの場所です。なので利用者さんは、自分の家にいるような感覚で過ごすことができます。収容人数は少ないですが、その分目配りも行き届き、スタッフや他の利用者さんとも親密になれ、自分らしく過ごすこともできます。大きな病院の施設にずっといるような感覚ではなく、必要なときに必要なだけ、ちょっと遊びに行ってみようかな・・・という具合に利用してもらえばそれでいいのです。

自分の家の近くの地域と密着した「ひとつの家」に気軽に立ち寄れるのが「富山型デイサービス」です。

３．介護されるご家族にとっても頼もしい施設

ご家族に介護が必要な人がいらっしゃると、不安なことがたくさんあります。自分たちで介護しようと思っていても限界がある時もあるでしょう。相談にのったり、送迎したり、ご家族の負担を少しでも軽減し、お手伝いさせていただくことが「富山型デイサービス」の仕事です。

中にはデイサービスだけでなく、宿泊もできるステイ型の事業所もありますので、ご家族で介護できない場合も安心してご利用していただけます。

「畳の上で死にたい」と言っていた利用者さんには、病院のベッドではなく、民家のような「富山型デイサービス」の畳の上でご家族と一緒に最期を看取り、その人らしく最期を遂げられたこともありました。